

## ジェトロバンコク設立70周年フォーラムを開催しました！ 一般調査報告書

2024年9月24日、バンコク中心部の Park Hyatt Hotel にて日本貿易振興機構バンコク事務所(以下、「ジェトロバンコク」という。)の設立70周年フォーラムが開催されました。私もジェトロバンコクの一員としてフォーラムの運営側として参加しましたので、今回のレポートでは、本フォーラムの様子をご紹介します。

### 1 ジェトロバンコクについて

日本貿易振興機構(以下、「ジェトロ」という。)は、2003年10月に日本貿易振興機構法に基づき、前身の日本貿易振興会を引き継いで、現在の独立行政法人日本貿易振興機構となりました。そのミッションは、国内外ネットワークをフルに活用し、イノベーション創出、農林水産物・食品の輸出や中堅・中小企業等の海外展開支援に機動的かつ効率的に取り組むとともに、調査や研究を通じ我が国企業活動や通商政策に貢献することであり、現在国内に50拠点、海外に75拠点を設置しています。

ジェトロバンコクはジェトロの海外事務所のうち2番目に古く、1954年に設置されました。当時ご縁のあった日高洋行社の倉庫に最初のオフィスを構え、1959年からは盤谷日本人商工会議所、タイ国日本人会とともに借り上げビルに入居しました。当時はまだ在留日本人や進出日系企業もそれほど多くありませんでしたが、1950年代～1960年代から自動車産業を始めとした輸出産業の発展が急速に進み、ジェトロバンコクの果たす役割は大きくなり、多様化していきました。

その後は、輸出・輸入促進事業の拡充や輸出先政府との協調・協議などの役割も果たすようになるとともに、産業育成支援も担うようになり、2000年代になると、一村一品運動(OTOP: One Tambon One Product)のことで、タイ政府主導の各地域の伝統的生産技術を用いて地場産業を育成し、優れた商品を開発することを目指した運動)にジェトロとしても全面的に協力し、日本のバイヤーなどへの紹介も行いました。また、その頃から動きが強まったFTA締結の流れにも乗り、ジェトロの取組も食品や人材育成など新たな分野へ広がっていききました。

そして現在では、元々主要事業として担ってきた日本企業のタイへの投資促進に加え、スタートアップ支援を通じたイノベーション創出や、日本産食品のタイへの展開支援、カーボンニュートラルなど脱炭素事業への協力など更に多方面への活動を進めています。今回、そうした新たな動きが進んでいる中での、70周年という節目を迎えた年となりました。

### 2 ジェトロバンコク設立70周年フォーラム

#### (1) ジェトロ石黒理事長あいさつ

フォーラムの冒頭、ジェトロの石黒理事長からは、「70年にわたりバンコク事務所は日タイのビジネス関係の

強化に取り組んできた。」、「J-Bridge を中心として推進しているオープンイノベーションが最重点活動である。脱炭素分野でもタイにおいて先行的に取り組んでいる。」、「本日は、共創による社会課題の解決を始め、両国がともに持続可能な成長を達成するうえで目指すべき今後の方向性やジェトロの果たすべき役割について議論したい」とあいさつがありました。



図 1 冒頭あいさつを行うジェトロ石黒理事長

## (2) 来賓あいさつ

### ①Phiphat 労働大臣

Phiphat 労働大臣は、「ジェトロバンコクは、日タイの間の貿易・投資の関係を深め、在タイ日系企業をサポートするという重要な役目を担っている。」、「今後もタイ労働省はジェトロバンコクと綿密に連携し、バンコク日本人商工会議所の景気動向調査を分析し、タイにおける日系企業の要望を応えられるように、努力していきたい。」、「本日のジェトロバンコク創立70周年フォーラムを機に、ジェトロバンコクがミッションを達成し、日本とタイの経済を推進する重要な力になるよう願う。」と述べられました。



図 2 来賓あいさつを行う Phiphat 労働大臣

### ②駐タイ日本国大鷹特命全権大使

大鷹大使からは、「タイという日本経済のグローバルサプライチェーンの一大拠点において、日本とタイのビジネスの架け橋として重要な役割を果たしてきた。」、「今後の日タイ協力のキーワードは『Co-

Creation』であり、持続可能な社会の実現に向けて、日タイが相互の強みを持ち寄って協力し、社会課題を解決、ともに反映する未来を築いていくことを期待する。」「そのドライビングフォースとしてジェトロバンコクの更なる活躍に期待する。」と激励のメッセージが述べられました。



図3 来賓あいさつを行う大鷹大使

### (3) Pichai 商務大臣による基調講演

続いて、タイ首相の代理として出席したタイ商務省の Pichai 商務大臣の基調講演が行われました。Pichai 商務大臣からは、「ジェトロは、日本の世界経済への統合を支え、貿易のリーダーとなるよう推進する上で多大な貢献を果たしてきた。」「ジェトロバンコクとタイは、信頼できる友人として、お互いから学び、友情・理解・献身・相互尊重を通じて、パートナーシップを今後も強化していくであろう。」「タイの商務大臣として、ジェトロと商務省との強力な関係を継続できることを特に嬉しく思っている。」「両国関係の強固な基盤の下、日本とタイのパートナーシップは今後 10 年、そしてそれ以降もさらに深化、拡大していくものと確信している。」「新たな時代をリードし、共に成長していくために、ジェトロバンコクが、日本とタイのつながりを支える活動を今後も推進していくことを期待する。」といった内容が述べられました。



図4 基調講演を行う Pichai 商務大臣

#### (4) ジェトロバンコク黒田所長プレゼンテーション

その後、ジェトロバンコク黒田所長からは、ジェトロバンコクのこれまでの70年間と現在の活動について、タイへの貢献という視点からプレゼンテーションが行われ、これまでの70年間を振り返るとともに、これからのジェトロバンコクの取組について紹介されました。日タイの協力にジェトロが果たした役割、そしてこれから果たすべき役割などが紹介される中で、特に象徴的なものとして、2011年のタイの洪水が起こった際のエピソードが紹介されていました。

2011年10月にタイで発生した洪水は、日系企業だけでも少なくとも550社が被害を受けたと言われ、サプライチェーンが寸断され、甚大な経済的損失を生み出しかねない状況となっていました。こうした状況を受け、発生数日後にはバンコクや東京本部、日本国内の各事務所には「洪水相談窓口」を設け、企業への支援体制をすぐに整えるとともに、日系企業の課題や要望を企業へのヒアリングを経てとりまとめ、当時のインラック首相始め要人へ申し入れるなど、タイ政府への働きかけも行いました。それ以外にも、日本政府に対する要望や、日系企業との協業による産業復興支援など多方面の取組を実施し、結果として洪水からの早期復興のお手伝いをできたのではないのでしょうか。

このように、日タイの支え合いに対してジェトロは一定の役割を果たしてきたと言え、今後もジェトロがもつ強みを生かして、今後もタイの皆さんとの連携の下、タイの産業や経済の発展、社会課題の解決に貢献することを改めて約束し、プレゼンテーションは締めくくられました。

また、プレゼンテーションの後に、ジェトロバンコクとタイ投資委員会(BOI)、東部経済回廊(EEC)事務局との協力覚書の更新に加えて、宇宙航空研究開発機構(JAXA)との新たな連携協力協定の締結も発表されました。これらにより、タイでジェトロバンコクの果たす役割は一層大きくなっていくものと思われます。



図5 プレゼンテーションを行うジェトロバンコク黒田所長

#### (5) パネルディスカッション

続いて行われたパネルディスカッションでは、日タイ経済に関わるパネリストが今後の両国協力の方向性について意見を述べ、活発な議論が行われました。タイ商工会議所(TCC)のKalin Sarasin 名誉会長は、日本の優れた医療機器・医薬品、安全な食品、高齢者向けモビリティなどの有望分野について述べるとともに、日系企業の5Sなどの高い品質を維持する考え方がタイにも浸透している点を称賛しました。また、泰日経済

技術振興協会の Prayoon Shiwattana 会長は、水素などの新エネルギーや高齢者介護に関する日本の技術革新をタイに取り入れたいと考えているとして、ジェトロに協力を求める場面も見られました。



図 6 パネルディスカッションの様子



図 7 パネリストとして意見を述べる TCC Kalin 名誉会長(右)



図 8 タイ味の素板倉社長(左)と TPA Prayoon 前会長(右)



図 9 algal bio 大江 COO(左)と JAXA バンコク事務所の中村所長

## (6) スタートアップショーケース

フォーラムではタイで活躍する日タイスタートアップ 6 社によるピッチイベントも開催され、来場者を多に沸かせていました。各社の主な内容は以下のとおりです。

### ①algal bio

藻類を用いて、二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の固定化や廃水浄化など、さまざまなソリューションを提供している。タイではセメント会社、石炭火力発電会社と実証実験を計画中。アジア大洋州で当社の技術に興味があればお声がけいただきたい。

### ②Thermalytica

エネルギー分野をはじめ、さまざまな用途で利用可能な新たな断熱材料を開発。タイでは現地企業と協力して活動し、将来的には現地生産も見越している。従来の材料とは異なり、2mmの厚さで非常に高い耐熱効果を誇る。ジェトロの Techsauce 事業で初めてタイに来たが、様々サポートしていただいている。

### ③TEPPEN

一人客の外食需要を見越し、海鮮おまかせ丼チェーンをタイで展開している。AIを使ったおすすめ機

能や、配達提案などを行うアプリも開発しており、将来的にタイで上場を目指している。現在、Japanese dining & Bar で 3 店舗、Yakitori dining & Bar で 1 店舗、Omakase Don で 5 店舗を出店。

#### ④LISTEN FIELD

日本政府の奨学金を受けて来日したタイ人起業家が日本で創業。データ解析技術を用いて土壌分析、肥料分量、天候予測を行い、育成すべき作物と収穫予測を提供している。創業者は愛知県内の大学に留学し、名古屋にも拠点をもつタイのスタートアップ。タイ人として、タイの昔からの農業をテクノロジーで改革したいという気持ちを強くもっている。

#### ⑤Recursive

AI 技術を用いてさまざまな社会課題解決策を提案するスタートアップ。同社全体で、約 60 人の AI エンジニアが在籍。タイでは気象データを生成する AI で、炭素削減やエネルギー、農業などへの応用を見込む。

#### ⑥i space

月に貨物を輸送するサービスを展開するスタートアップ。日本とタイの航空セクターで連携し、タイ市場でのコラボレーションを探っている。ジェトロや JAXA とも協力しながら進めていきたい。



図 10 algal bio 大江 COO



図 11 Thermalytica Rudder Wu CTO



図 12 TEPPEN 柳本 CEO



図 13 LISTEN FIELD Rassarin Chinnachoteeranun CEO



図 14 Recursive Taylor Scobbie Director



図 15 i space 浦田 Manager

### (7) その他

スタートアップショーケースの後は、日本食材のプロモーションも兼ねた参加者全員によるネットワーキングが開催されました。会場では、スタートアップショーケースで登壇した **TEPPEN** の柳本 CEO による日本食パフォーマンスなどが行われ、日本酒とともに参加者にふるまわれました。

当センターとしては、愛知県の関谷醸造様の「空」をラインナップに入れ、愛知県日本酒の PR も行ったところ、参加者の皆様からも非常にポジティブな感想を得ることができました。また、愛知県が相互協力に関する MOU を締結しているバンコク都のチャチャート都知事ともお話する機会があり、ジェトロバンコク 70 周年に対するお祝いのお言葉と、愛知県と今後も更なる協力を継続していきたいとお話を頂戴しました。



図 16 日本食パフォーマンスを行う TEPPEN 柳本 CEO



図 17 日本各地の 4 種類の日本酒を提供



図 18 ホタテを使用した料理



図 19 梨とさつまいもを使用したスイーツ



図 20 提供された関谷醸造「空」



図 21 バンコク都チャチャート都知事(左)と筆者(右)



図 21 VIP の集合写真



図 22 フォトセッションの様子

こちらのネットワーキングをもって、ジェトロバンコク設立 70 周年記念フォーラムは終了しましたが、改めてジェトロバンコクのタイにおける役割や期待の大きさを確認することができました。当センターとしては愛知県企業の ASEAN・インドにおけるビジネス展開支援を行っていますが、同時にジェトロバンコクの各事業にも携わっています。こうしたジェトロの力・ネットワークも活用しながら今後も力を尽くしていきたいと気持ちを新たにできたよい機会となりました。御来場くださいました皆様には、改めて御礼申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。

### 3 おわりに

本編とは関係がないのですが、直近で非常に印象に残った話を少しお届けしたいと思います。

10 月に DENSO INTERNATIONAL ASIA 様へ打合せのために訪問した際、せっかくの機会なのでということで、同社の社員食堂へお邪魔いたしました。

まず驚いたのはその価格で、和食は概ね 100THB 以下、ガパオライスなどのタイ料理に関しては 35THB 程度と非常にリーズナブルで、味もきちんとおいしく作られていたのが印象的でした。私は写真のハンバーグ定食を頂きましたが、こちらは 95THB で非常にボリュームもありおいしかったです。普段の昼ご飯は職場の近くで食べていますが、都心の和食レストランでハンバーグ定食を食べると恐らくは 300~350THB 程度しますので、それと比べるとおよそ 1/4~1/3 という驚きの価格です。他にもいくつかのメニューがあり、同行した同僚も思



い思いのメニューを食べていました。

また、混雑を避けるために利用については15分毎の3交代制とされていたり、コーヒー販売のカウンターが併設されていたりと、社員の利便性を考えた設計とされていたのが印象的でした。社員食堂への通路には売店もあり、果物や軽食が安く販売されています。そこで販売されていた10THBの豆菓子も値段の割にとってもおいしく、日本でのお土産にもピッタリということで、次回お邪魔した際にはお土産として是非購入させていただきたいという気持ちになりました。

在タイの企業様を訪問させて頂く機会は多くありますが、こうした業務以外の面を知ることができるというのは私どもとしても非常にありがたいです。帰りがけには同社のレセプションに展示されている製品群の御説明もいただき、非常に有意義な一日となりました。ご対応くださいました、末松様、羽谷様、片川様にはこの場を借りて御礼申し上げます。



図 23 社員食堂の注文カウンター



図 24 筆者が注文したハンバーグ定食(95THB)



図 25 展示品の説明を受ける様子



図 26 正面玄関での集合写真

#### 【参考文献】

ジェトロビジネス短信 <https://www.jetro.go.jp/biznews/2024/09/e5ed3d7fe0e4929e.html> (参照 2024-10-09)  
同志社大学「タイの一村一品運動商品の日本市場でのマーケティング企画」[https://pbs.doshisha.ac.jp/pbs/attach/page/PBL-PAGE-JA-535/52390/file/2imadegawa\\_p33-35.pdf](https://pbs.doshisha.ac.jp/pbs/attach/page/PBL-PAGE-JA-535/52390/file/2imadegawa_p33-35.pdf) (参照 2024-10-09)

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。